

みかん

隔年結果防止
のため
着果管理の徹底を

果樹林産センター
杉本 悠太郎



平成30年産温州ミカンは全国的に表年と言われる中で、予想生産量は約84万tと農水省より発表されました。今年も隔年結果防止のための摘果が重要となります。着果状況に合わせて来年、再来年を見据えた管理をしましょう。

《着果管理》

隔年結果を是正するため、着果量の多い樹の早期摘果として、次の方法があります。

樹冠上部摘果

樹上部1/3程度の果実を全て摘果します(図)。発育枝の少ないベタ花樹では1/2を目安としてください。

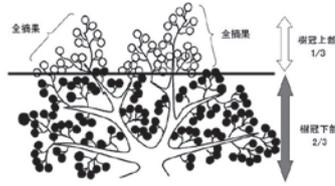


図) 樹冠上部摘果のイメージ

枝別全摘果

目通り部で太さ3〜5cm程度の発育枝の発生している枝を全摘果し、着果させない枝を作ります(写真)。

着果量の少ない樹

後期摘果を主体にし、今月は被さり枝の除去を中心に管理してください。



枝別全摘果した場合の収穫前の様子

《品質向上》

近年はスーパーなどでも糖度表示が一般的となりました。しかし、糖度を重視するあまり樹勢の低下や隔年結果を招いてしまう場合がありますので、樹勢を見ながら適度な水分ストレスを与えましょう。

フィガロン散布

果実の横径が平均3cm以上で二次落果が

終了していることを確認してから行いましょう。

1回目：満開後70日(早生60日) 2000倍
2回目：満開後90日(早生80日) 3000倍

マルチ被覆

マルチ被覆は、増糖効果や着色促進効果などがあります。被覆時期は早生温州が7月下旬、青島温州が8月上旬〜9月上旬です。園地の状態に合わせて被覆の時期や方法を検討しましょう。

《病虫害防除》

7月上旬

・黒点病 ペンコゼブ水和剤

5000倍(30日〜4回)

・アザミウマ類、ミカンサビダニ

コテツフロアブル 40000倍(前日〜2回)

今月から果皮障害軽減を目的に、通常防除にバイカルティを1000倍で混用しましょう。